

# 「ウンコと下水道から考える環境史—文明転換についてのダイアログ」

担当教員 湯澤規子、根崎光男

---

## コースの概要

日程

場所 当初予定：東京都下水道局・水再生センター、旧三河島污水処分場唧筒場施設、東京都水道歴史館、小平市ふれあい下水道館などの見学

実施：各受講生の身近な場所および人への調査（自宅付近、祖父母の家など）

参加人数 4人

## コースのねらい

私たちが生きるうえで欠かせない身近な事象から、環境について等身大の議論を試みる。今回は「ウンコと下水道」をキーワードにして、江戸時代から現代までの日本、19世紀～21世紀のヨーロッパとアジアの比較研究を中心に論じ、文明転換についてのダイアログ（対話）を受講生と共に深めることを目的とする。

---

## 内 容

①身近な聞き取り調査、②身近なフィールド調査、③関連する施設見学を組み合わせる予定であったが、緊急事態宣言下で③が困難であったため、①と②を組み合わせたフィールドワークを実施した。

具体的には汲み取り式から水洗式への転換に着目した「年代別に見るウンコ・トイレ観」についての調査（埼玉県）、聞き取り調査やトイレ施設の現地調査による「うんこ・トイレの色々な捉え方」についての調査（北海道ほか）、祖父母への聞き取り調査による「下肥利用の技術」（静岡県）、「便所と農業と動物の関係」（神奈川県、秋田県）についての調査が各受講生によって実施された。いずれも知人や家族など、身近な人びとへの聞き取り調査により、具体的な情報が集まり、地域差、世代差などを比較検討することができた。

## 学習を終えて

当初予定していた施設見学は緊急事態宣言下の施設閉鎖などにより実施できなかったが、その代わりに学生たちが工夫して実施した聞き取り調査、路上観察、統計データの収集などは興味深いものが多かった。4名の受講生それぞれのテーマや調査対象とする時代や世代が異なっていたために、事後学習の内容が充実したものになった。ただし、体験の場や機会など、with コロナのFSとしては、まだ工夫の余地があると感じたので、引き続きその方法を考えていきたい。